

学会ジョイントプログラム1 <日本緩和医療学会>

日時：2022年6月11日（土）8:30-10:00

【緩和ケア×プライマリ・ケア 世界の潮流と家庭医／

総合診療医の役割，そして教育プログラム】

<企画責任者> 喜瀬 守人（医療福祉生協連家庭医療学開発センター）

司 会 喜瀬 守人（医療福祉生協連家庭医療学開発センター）

演 者 浜野 淳（筑波大学医学医療系）

演 者 木澤 義之（筑波大学医学医療系）

演 者 加藤 寿（秩父市立病院）

演 者 前野 哲博（筑波大学医学医療系）

<企画概要>

WHOはUniversal Health Coverageの1つとして緩和ケアを位置づけ、人道的な観点や人権という視点で普及する方向になっています。そのため、緩和ケアを提供するのは、家庭医をはじめとしたプライマリ・ヘルス・ケアの人々というのが世界的な流れですが、我が国ではその認識がまだ拡がっていません。日本プライマリ・ケア連合学会では、緩和ケアの世界的な位置づけを踏まえ、プライマリ・ヘルス・ケアにおける緩和ケア（＝家庭医の一般診療です）を普及していくために教育や研修体制を整え、世界標準の家庭医を育成できるのではないかと、という考えに基づいて、日本緩和医療学会と合同で研修プログラム開発に着手することになりました。



第13回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会
The 13th Annual Conference of Japan Primary Care Association
2022年6月11日(土)～12日(日) | パシフィコ横浜

学会ジョイントプログラム2 <日本感染症学会>

日時：2022年6月11日（土）8:30-10:00

【続々・Meet the expert

感染症専門医はプライマリ・ケア医からの疑問に応えられるのか？】

<企画責任者> 鈴木 富雄（大阪医科薬科大学病院）

座 長 鈴木 富雄 （大阪医科薬科大学地域総合医療科学寄附講座）

座 長 早川佳代子 （国立国際医療センター病院）

演 者 山口 征啓 （コネクト合同会社）

演 者 岸田 直樹 （感染症コンサルタント/北海道科学大学薬学部客員教授）

<企画概要>

プライマリ・ケア医は日常診療の中で多くの感染症を診療しているが、診断のための検査、抗菌剤の選択など、標準的な方法と、実際のプラクティスが、必ずしも一致しないこともある。エビデンスと現場で行えるギャップのジレンマに悩むことも多い。率直な疑問に対して、感染症の専門家からの実践的な回答を得て、明日からのプラクティスの糧にするという目的の企画である。以前の企画同様、日本プライマリ・ケア連合学会の会員にメールで呼びかけて、プライマリ・ケアの現場での感染症の診療に関して、感染症専門医に聞きたいことを、前もって集め、会場の感染症専門医が詳細な解説を交えながら応えるという形を取る。



第13回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会
The 13th Annual Conference of Japan Primary Care Association
2022年6月11日(土)～12日(日) | パシフィコ横浜

学会ジョイントプログラム3 <日本東洋医学会>

日時：2022年6月11日（土）14:45-16:15

【呼吸器疾患に用いる東洋医学（漢方・鍼灸）】

<企画責任者> 樫尾 明彦（給田ファミリークリニック）

座 長 網谷真理恵（鹿児島大学歯学総合研究科

離島へき地医療人育成センター）

演 者 野上 達也（東海大学医学部専門診療学系 漢方医学）

演 者 高山 真（東北大学病院 総合診療科・漢方内科）

演 者 鈴木 雅雄（福島県立医科大学会津医療センター 漢方医学講座）

演 者 樫尾 明彦（給田ファミリークリニック）

<企画概要>

特に急性呼吸器感染症では、風邪に見えて風邪ではない疾患を見逃さなければ、風邪は自然に軽快すると考えられていた。しかし、新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19）の流行以降、風邪症状の原因が新型コロナウイルスの感染か否かが、その感染力の高さや重症化リスクからも問題となっている。COVID-19 の治療については、2022年3月現在、一部外来でも処方できる薬剤が認可されたが、まだ使用できる状況は限られ、入院適応がある場合以外は、対症療法が中心となると考えられる。漢方や鍼灸では、原因となる病原体が何かによらずに、症状や闘病反応から、適した治療を見つけていくため、COVID-19 が疑われても、治療の選択肢は複数見込める。特に COVID-19 の漢方治療に関して、日本東洋医学会主導で臨床研究が進められており、その研究結果についても今回報告したいと考えている。また、呼吸器疾患の治療における大学病院での西洋医学と漢方の併用の意義、COPD に対する鍼灸治療についても、今回発表を行う予定である。



第13回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会
The 13th Annual Conference of Japan Primary Care Association
2022年6月11日(土)～12日(日) | パシフィコ横浜

学会ジョイントプログラム4 <日本在宅医療連合学会>

日時：2022年6月12日（日）8:15-9:45

【在宅研修と診療の質を担保するには】

<企画責任者> 木村 琢磨（埼玉医科大学 総合診療内科/HAPPINESS 館クリニック）

司 会 平原佐斗司（オレンジほっとクリニック所長

地域連携型認知症疾患医療センター）

司 会 木村 琢磨（埼玉医科大学 総合診療内科/HAPPINESS 館クリニック）

演 者 江口幸士郎（今立内科クリニック）

演 者 木下 朋雄（和光ホームケアクリニック）

演 者 雨森 正記（医療法人社団弓削メディカルクリニック/

滋賀家庭医療学センター）

演 者 川越 正平（あおぞら診療所）

<企画概要>

「総合診療専門研修プログラム」、「新・家庭医療専門研修プログラム」において、「在宅医療研修」は重要な位置づけですが、多くのプログラム責任者、指導医、専攻医にとって、①プログラム運営、②教育・研修の質担保、③診療の質担保、に多くの課題がある現状ではないでしょうか。①プログラム運営においては、他の研修と在宅医療研修の両立、研修の場を確保する必要性などがあると考えられます。②教育・研修の質担保においては、比較的短期間の在宅医療研修で何をどこまで学ぶかの目標設定が困難なことも少なくありません。③診療の質担保として、短期研修中の医師が初回訪問で看取るケースや、他の医師へ引き継ぐことの患者への影響などが挙げられるでしょう。本シンポジウムでは、在宅医療研修と診療の質を担保するための具体的な方法や対策について、プログラム責任者、指導医、専攻医の皆様と共有し考え、明日からの在宅医療研修・診療に役立つ内容を目指します。



第13回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会
The 13th Annual Conference of Japan Primary Care Association
2022年6月11日(土)～12日(日) | パシフィコ横浜

学会ジョイントプログラム5 <日本臨床疫学会>

本大会では中止となりました。



第13回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会
The 13th Annual Conference of Japan Primary Care Association
2022年6月11日(土) ~12日(日) | パシフィコ横浜

学会ジョイントプログラム6 <日本腹膜透析医学会>

日時：2022年6月12日（日）10:00-11:30

【腹膜透析で変わるCKDの在宅診療 ～家庭医が始める腹膜透析～】

- <企画責任者> 高木 暢（多摩ファミリークリニック）
- 座 長 土谷 健（東京女子医科大学血液浄化療法科）
- 座 長 木村 琢磨（埼玉医科大学総合診療内科）
- パネリスト 宮崎 正信（宮崎内科医院）
- パネリスト 佐藤 克哉（猿払村国民健康保険病院）
- パネリスト 高木 暢（多摩ファミリークリニック）
- パネリスト 佐々木直美（ひばりの森訪問看護ステーション多摩）
- パネリスト 櫻田 勉（聖マリアンナ医科大学病院腎臓・高血圧内科）

開催の目的

本セッションは、日本プライマリ・ケア連合学会と日本腹膜透析医学会とのジョイントプログラムである。2020年の第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術集会、2021年の第27回日本腹膜透析医学会学術集会に続き、3回目の開催となる。過去2回はそれぞれ「CKDの在宅診療～腹膜透析の多様性～」、「CKDの在宅診療と腹膜透析」と題して、在宅医、腎臓専門医、透析専門医、連携室看護師から発表を行い、CKD診療の中で腹膜透析（PD）と在宅診療の親和性について理解を深めることができた。しかし、PDの裾野を広げていくためには、プライマリ・ケア医や在宅医のさらなる参入と一緒に支える多職種が存在が不可欠である。今回、PDがCKD診療の中でどのような位置付けで、患者さんや家族、地域に対してどのような恩恵をもたらすことができるのか、在宅診療でPDを実践している医師（腎臓専門医、連携認定医、非専門医）、看護師それぞれの立場からの発信と、腹膜透析医学会による連携認定医制度や腹膜透析認定指導看護師制度について概説する。

企画概要

腹膜透析（PD）は血液透析のように週3回の通院もなく、自宅で透析療法を行う点で、基本的には在宅医療ということができる。



第13回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会
The 13th Annual Conference of Japan Primary Care Association
2022年6月11日(土)～12日(日) | パシフィコ横浜

高齢化により CKD 患者数の増加とそのマネジメントは専門医だけでなく、プライマリ・ケア医の外来診療や在宅医の在宅診療でも重要度が増してきている。末期腎不全となった際に、腎代替療法として治療の選択肢を適切に説明し、SDM(shared decision making:共同意思決定)や ACP(advanced care planning:家族会議)のプロセスに関して、患者、家族、専門医、プライマリ・ケア医、在宅医、多職種などと連携していく必要がある。

本セッションでは、専門医から CKD 診療における PD の位置付けとして特に「PD ファースト」や「PD ラスト」について、連携認定医から地域の中で PD を診療する意義と非専門医へ PD 診療への参入のアドバイスを、非専門医から在宅医が在宅医療で PD を管理していくポイントについて、訪問看護師から在宅医療での PD の可能性や在宅医との連携について発表をお願いしている。また、プライマリ・ケア医や在宅医、看護師が PD について学び、よりスムーズに専門医と連携できるようにするための日本腹膜透析医学会の制度についても説明し、PD への興味と参入を促していく。



第13回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会
The 13th Annual Conference of Japan Primary Care Association
2022年6月11日(土) ~12日(日) | パシフィコ横浜

学会ジョイントプログラム7 <日本病院総合診療医学会>

日時：2022年6月12日（日）14:15-15:45

【2学会合同で取り組む「新しいジェネラリスト広報戦略」とは】

<企画責任者> 石丸 裕康（関西医科大学）

座 長 石丸 裕康（関西医科大学）

演 者 志水 太郎（獨協医科大学）

演 者 鈴木 智晴（浦添総合病院 病院総合内科）

演 者 豊田 喜弘（福島県立医科大学 医学部 地域・家庭医療学講座）

演 者 飯塚 玄明（多摩ファミリークリニック）

演 者 合田 建（神戸大学地域医療支援学部門/兵庫県立丹波医療センター）

演 者 坂本 哲（獨協医科大学病院）

演 者 鈴木 森香（国立病院機構 仙台医療センター）

<企画概要>

医学部入学時にジェネラリストを志す学生は少なくないはずですが、学生や初期研修医への広報・リクルートがうまくいっていないと感じている方は多いのではないのでしょうか？要因として、総合診療の認知度が低い・キャリアパスが明確でないなどの意見が多数ありました。そこで2022年3月、日本プライマリ・ケア連合学会と日本病院総合診療医学会の合同プロジェクトチーム『Genelink』が発足しました。学生及び初期研修医をメインターゲットにした若手～中堅医師で構成されたチームですが、世代を問わずジェネラリスト志向の仲間が増え、つながりが広がっていくことを目標としています。本プログラムでは、これまで2学会が取り組んできた広報・キャリア支援を振り返り、今後『Genelink』が取り組むべき新しく柔軟な活動とはどのようなものかを検討します。ご聴講いただく皆様からもアイデアなどご意見を伺いながら進行するインタラクティブな会を予定しております。



第13回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会
The 13th Annual Conference of Japan Primary Care Association
2022年6月11日(土)～12日(日) | パシフィコ横浜

学会ジョイントプログラム 8 <日本心身医学会/日本心療内科学会>

日時：2022年6月12日（日）14:15-15:45

【「プライマリ・ケアの現場で臨床心理士（師）と協働してみませんか？」】

<企画責任者> 西山順滋（関西医科大学心療内科学講座/同附属病院総合診療科）
座長 西山 順滋（関西医科大学心療内科学講座/同附属病院総合診療科）
演者 豊田 英嗣（日本原病院）
演者 新野 青那（福井大学大学院地域総合医療学コース）
演者 兵 純子（関西医科大学心療内科学講座）

<企画概要>

心身医学は「患者を身体面とともに心理面、社会面（生活環境面）をも含めて、総合的、統合的にみていこうとする医学」と定義され、心身医学の診療を行う専門診療科が「心療内科」です。ここで必要不可欠なメディカルスタッフが「臨床心理士/公認心理師」（以下、臨床心理士）で、数多くの心理職が活躍されています。一方、心理社会的な問題を数多く扱う機会があるプライマリ・ケアの現場において、臨床心理士が関わっているケースはまだまだ少ないのが現状ではないでしょうか？本プログラムでは・臨床心理士の役割・総合診療の現場における臨床心理士との協働・家庭医療グループ診療における臨床心理士の活用について、臨床心理士、心療内科医にご講演をいただき、参加者も交えてディスカッションしたいと思います。臨床心理士と仕事をすることがない方から既に協働されている方まで、多くの方にご参加いただき、双方向の討論ができますことを願っています。



第13回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会
The 13th Annual Conference of Japan Primary Care Association
2022年6月11日(土)～12日(日) | パシフィコ横浜